



月報

No. 4 4 3
2 0 1 7 年
4 月

日本キリスト教団
茅ヶ崎香川教会
茅ヶ崎市香川1丁目 34-35
<http://kagawachurch.jimdo.com/>

説教 『神により恵まれるよう祈る』

マラキ書 1章1節～14節

小河信一 牧師

本日は、2010年4月に創世記から始めて、これまで行^{おこな}ってききました旧約聖書の講解説教……重要な箇所を飛び飛びに取り上げたかたちであります……の最終回にあたります。マラキ書は旧約39文書中の最後です。

ここで一つ主題となることは、旧約聖書のその終わりにふさわしいことが書かれ、それが新約聖書につながっているかどうか、という点です。旧約から新約へ、ここでは、マラキ書からマタイ福音書へというつながりを見通すために、まずマラキ書3:24（旧約の最終節）を読んでみましょう。

彼（預言者エリヤ）は父の心を子に
子の心を父に向けさせる。
わたしが来て、破滅をもって
この地を撃つことがないように。

終わりの日、神の御力が発揮される際の状況として、人の罪によって破れてしまった父と子の関係が描かれています。

ここで言う「父と子の関係」とは、この地上の父親たちとその子どもたちの関係と同時に、父なる神と子なる信仰者の関係を指していると思われます。そこには、旧約の最後にあたって、父と子の関係が主にあって喜ばれるものとなるように、という祈りが込められています。そうして、危うくなってしまう父と子との関係回復を願っての、「父の心を子に 子の心を父に」との祈り求めが新約へと引き渡されているのです。

ところで、新約聖書・マタイ福音書の最初には、何が書いてあったのでしょうか？

まずは、イエス・キリストの系図（マタイ 1:1-17）が出て来ます。その系図には、女性（マリアを含め5名）も含まれていますが、基本的には、父から子へという連鎖、アブラハムからイエスへと至る系譜です。

マタイ福音書・冒頭の、こうした連綿たる「父と子」のつながりは、マラキ書において提起された「父と子」との関係破綻ならびに関係修復への祈りと響き合っています。そしてさらに、この福音書の最初の出来事もまた、「父と子」のつながりを主題としています。

マタイ福音書 1:20-21——

20 このように考えていると、主の天使が夢に現れて言った。「ダビデの子ヨセフ、恐れず妻マリアを迎え入れなさい。マリアの胎の子は聖霊によって宿ったのである。21 マリアは男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。」

主の天使は、かけがえのない子どもの誕生を、ヨセフに告げました。単に肉の目で見るとは、信仰の目をもって、あなたがた・夫婦に産まれる「インマヌエルと呼ばれる」イエスという男の子を受け止め、マリアと共に育てていきなさい、と命じられました。まさにヨセフはイエス誕生直後、命懸けの、エジプトへの逃避行をして、その子を守りました。

マラキ書 3:24 の預言の成就であるかのように、ヨセフはその父親の心を、子ども……と言っても特別な子ども、神の御子ですが……へ向けるということが起こったのです。旧約の巻末が新約の巻頭と結び付いているということは、何よりも神の救いの歴史の確かさを物語っています。

それでは、上記のような旧新約の連関を前提としながら、具体的にマラキ書 1 章を読むことにしましょう。

マラキ書 1:2-3——

2 しかし、わたしはヤコブを愛し 3 エサウを憎んだ。

この短い句を、旧約聖書を読む達人と呼んでも過言ではない、パウロがローマの信徒への手紙 9:13 に引用しています。パウロは、イエス・キリストの福音を照らし出す言葉として、数ある旧約の文章から、これを選び出しました。彼は、この句を基としそこから、神の自由のもとにある救いの計画を説き明かしています。この点においても、マラキ書からローマの信徒への手紙へと、旧約から新約へとつながっています（詳細は後に見ます）。

ところで、マラキ書 1 章の内容は大きく、:1-5 「父と子の愛にある関係」（主に父なる神と子なる信仰者の関係）と:6-14 「正しい礼拝」に分けられます。

マラキ書 1:2-3——

2 わたしはあなたたちを愛してきたと

主は言われる。

しかし、あなたたちは言う

どのように愛を示してくださったのか、と。

エサウはヤコブの兄ではないかと

主は言われる。しかし、わたしはヤコブを愛し

3 エサウを憎んだ。

わたしは彼の山を荒廃させ

彼の嗣業を荒れ野のジャッカルのものとした。

この章句の中で、「わたし（主）はあなたたちを愛してきた」というのは、旧約中の最重要聖句と言えるものです。旧約最後の総括として、39 の書物全体の使信を一言で表したのが、「わたしはあなたたちを愛してきた」ということです。天地創造から荒れ野放浪へ、そしていろいろなことが語られてきたけれども、その一つの中心は「神は人を愛するお方である」ということです。パウロの有名な言葉、「それゆえ、信仰と、希望と、愛、この

三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である」(コリントの信徒への手紙 一 13:13)で、中心に据えられているのも、やはり「愛」です。

この「神は人を愛する」ということは、父なる神の側から人間に為してくださることです。その神の愛に対して、人間の側は、どのような応答したのでしょうか？

この際、規範とすべき主イエスの教えは、次の通りです。

マタイ福音書 22:37-39——

37 イエスは言われた。「『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』 38 これが最も重要な第一の掟である。39 第二も、これと同じように重要である。『隣人を自分のように愛しなさい。』」

ところが、そうではなかった、ということが、マラキ書 1:2 によって露わにされています。

マラキ書 1:2——

しかし、あなたたちは言う

どのように愛を示してくださったのか、と。

端的に言えば、大いなる神に対しあなたたちは、告白・感謝・讚美(詩編 136:1、フィリピ 1:3-11)などではなく、情け無くも、つぶやきや疑いをもって応じた(より正確には直接向き合わなかった / 斜に構えた)というのです。

「(神は) どのように愛を示してくださったのか」……言葉を補えば、その証拠を見せてください、と訴えています。ここに、マラキによって、神に無理な要求をする人間の頑なさがえぐり出されています。

ところで、今日は、文書の終わりとは初めということをお話ししていますが、聖書で文書・手紙やその章句が閉じられるパターンは大きく二通りあります。

一つは、こちらが大変優勢ですが、頌栄・讚美・祝祷です。詩編 150:6、コリントの信徒への手紙 二 13:13、ヨハネの黙示録 22:21 など、枚挙にいとまがありません。

もう一つ、かねて私が注目しているのが、最後の最後に来て、人間の弱さや罪を見つめるというものです。マタイ福音書 28:17「しかし、疑う者もいた」やヨハネの手紙 一 5:21「子たちよ、偶像崇拜を避けなさい」はその典型です。また、旧新約で最も長い節を持つ詩である詩編 119 の最後は、次のようになっています。

詩編 119:176——

わたしが小羊のように失われ、迷うとき

どうかあなたの僕を探してください。

あなたの戒めをわたしは決して忘れません。

今さら「失われる」とか、「迷う」とか、何と弱気なことか、何と意気地の無いことか、と思われるでしょうか。いつも、讚美あるいは祝祷で締め括るべきでしょうか。

現代用語で言えば「危機管理」に該当する少数派のこの終わり方は、軽視されることなく、私たちの心に刻まれるべきものです。

もう一度最後に言うが、あなたがたは弱い人間だから、あるいは、あなたがたは清められた状態から瞬時に罪の泥沼に舞い戻ってしまうから、という聖書の詩人や著者の忠告を、私たちはわきまえていなければなりません。

私たちは自らを省みるならば、必ずしも堅い正しい信仰や愛に満ちた生活を保っているわけではありません。私たちには、すぐに正しい神信仰から外れて行ってしまう危うさがあります。

マラキ書 1:2——

しかし、あなたたちは言う

どのように愛を示してくださったのか、と。

どのような時に、神よ、私に愛の証拠を示してください、というつぶやきが生じるかと言えば、それは、私たちが人生で不幸に出合った時です。

「どうして神は自分をこんな不幸に遭わせるのか？ 神はほんとうに自分を愛してくださっているのか？ 神が愛しておられるのならば、たった今、そのしるしを見せてください！」

その時、私たちは、神の姿が見えなくなります。「神などいるものか」と疑い出します。そうして、疑いや迷いが積み重なってゆくと、やがて神信仰そのものが揺さ振られるようになります。

マラキ書 1:2-3——

² しかし、わたしはヤコブを愛し ³ エサウを憎んだ。

ここに、ヤコブとエサウという双子の例が引かれています。その意味するところは、こうです。出自と育ち、家庭環境などが似ている二人が、大きく異なる人生を歩みました。時に、エサウがヤコブをうらやみ（長子の権利を奪われた時：創世記 27:34,38）、時にまた、ヤコブがエサウを恐れました（創世記 32:12）。うらみ、ねたみ、恐れなどが同じ父母を持つ二人、長男と次男との間を往き交っています。

そのように、自分よりも人の方が人生において上手に立ち回っているのを、あるいは、自分よりも人の方が幸せになっているのを見た（実際にそうでなくてもそう思い込んだ）ときに、私たちが行き着くのが、「神はほんとうに自分を愛してくださっているのか？」という問いなのです。

その時、私たちの「神はほんとうに自分を愛してくださっている」という確信が揺らぎます。そして、「神よ、私を愛してくださっている証拠を見せてください」とつぶやくのです。

このような難題に、聖書の最後の書、マラキ書は焦点を合わせています。そして、この難題は、私たちの今日の問題でもあります。神は、「危機管理」を踏まえて、弱く乏しくもある信仰者をこの難題に対峙させようとしておられます。

W.リュティの説教 『預言者ハバクク・マラキ』、新教出版社、108～110 頁——

「今日私たちの唇からも、驚くほど易々と、神の愛を疑う問いが発せられるからです。…… 私たち人間が神の愛を呼び求めるそのところで、私たちのわがままが最高に募るといのは、ほんとうに、不思議なことです。…… つまり、私たちは、自分たちの気に入

るように、神が愛してほしいのです。どのように愛し、また、いつ、どこで、どんな人、どんな事柄を通して、私たちが愛したらよいのかと、神に処方箋しよほうせんを書いてやらんばかりです。」

W.リュティは、神をコントロールせんばかりの人間の様子を描き出しています。

マラキは、神の愛を疑い、人の幸福をねたむ末に、神が見えなくなると、「正しい礼拝」が崩れていってしまう、と言います。

マラキ書 1:6——

子は父を、僕は主人を敬うものだ。

しかし、わたしが父であるなら

わたしに対する尊敬はどこにあるのか。

わたしが主人であるなら

わたしに対する恐れはどこにあるのかと

万軍の主はあなたたちに言われる。

わたしの名を軽かろんずる祭司たちよ

あなたたちは言う

我々はどのようにして御名を軽んじましたか、と。

堅い信仰を持っているはずの祭司たちはじめイスラエルの民は、父なる神への尊敬や畏れを失いかけていました。

マラキ書 1:9——

今、神が恵みを与えられるよう

ひたすら神に赦しを願うがよい。

これは、あなたたちが自ら行ったことだ。

神はあなたたちの誰かを

受け入れてくださるだろうか

万軍の主は言われる。

マラキ書 1 章には、罪に陥ろうとしている人間に対する警告が前面に出て、厳しい言葉ばかり並んでいるように見えます。しかし、冒頭の「わたしはあなたたちを愛してきた」など、慰めや励ましに満ちた言葉が含まれています。

このマラキ書 1:9 は祈りについての教えです。「神が恵みを与えられるよう」と言って、神に全幅の信頼を置いています。自分の幸不幸を原点に据える、つまり、自分の側から始めるのではなく、まずもって、神から恵みが注がれるよう乞い願っています。「あなたから、ただただ恵みを与えられますように」と、主なる神の前にひれ伏しています。

そして、神から恵みが与えられ続けるという点において、「神に赦しを願う」ことが大切であると言います。自らの罪を悔い改め、神に赦していただくということです。

この一節は、「正しい礼拝」の段落（マラキ書 1:6-14）の中央にあります。正しい礼拝というのは、祈りをもって、神から恵みを与えられるように待ち望み、自らは罪を告白し、神の赦しにあずかることを重んじるものです。

マラキ書 1:11——

日の出る所から日の入る所まで、諸国の間でわが名はあがめられ、至るところでわが名のために香がたかれ、清い献げ物がささげられている。わが名は諸国の間であがめられているからだ、と万軍の主は言われる。

この一節には、私たちの執り行うべき礼拝の有り様が描かれています。神の愛について人間が疑いを抱く中であって、礼拝により神との関係を修復していくことを示しています。その礼拝において、正しい献げ物、「清い献げ物」をささげるように教えています。

マラキ書 1:12 以下には、「盗んできた動物」など、間違った献げ物の例が挙げられています。礼拝において、「献げ物」が重要であることは、マラキの時代、旧約の時代で終わりになったのではありません。これは、新約に受け継がれている使信の一つです。

どのような犠牲が、今私たちの礼拝においてささげられているのでしょうか？

それは言うまでもなく、主イエス・キリストご自身がささげられた、ということです。人間はいかに努力したとしても、マラキが告発したように、真心のこもっていない献げ物、自分が先に必要な分を取り分けた残部の献げ物しかささげることができません。神は、そのような弱く乏しい人間を顧みてくださいました。

父なる神は、御子・イエス・キリストを十字架にささげる、すなわち、一回限りのまことの献げ物、罪に染まっていない傷のない犠牲、「世の罪を取り除く神の小羊」（ヨハネ 1:29）をささげることを成し遂げてくださいました。

マラキは、偽りの犠牲が祭壇にささげられているような神殿・礼拝所なのだから、「誰か、戸を閉じる者はいないのか」（1:10）と嘆いていました。しかし、幸いにも、私たちは教会の戸を閉じねばならないという事態には陥りませんでした。

W.リュティの説教 『預言者ハバクク・マラキ』、新教出版社、126～127 頁——

「もう、他に贖いの献げ物はいっさい必要ではありません。従って、神殿の垂れ幕は、上から下まで真っ二つに裂けました（マタイ 27:51）。ご覧なさい、今や、聖餐卓への道は広く開かれています。」

マラキが、^{かる}軽んじられ汚されていると訴えた「主の食卓」（1:7,12 参照：I コリント 11:20-22）は、主イエス・キリストの十字架の血潮によって清められました。それは、聖餐卓として、礼拝堂の真ん中に回復されました。十字架につけられ復活された御子、イエス・キリストを信じる者は、誰でも礼拝に来なさい、との招きの声が天より地へ響いています。

ローマの信徒への手紙 9:11-12——

その子供たちがまだ生まれもせず、善いことも悪いこともしていないのに、「兄は弟に仕えるであろう」とリベカに告げられました。それは、自由な選**び**による神の計**画**が人の行いにはよらず、お召しになる方によって進められるためでした。

「その子供たちがまだ生まれもせず、善いことも悪いこともしていないのに」という意味は、とりわけその二人が双子であるにもかかわらず、エサウとヤコブの人生は神の御計画と御心のうちに大きく異なっているのは（それは人の目にまことに不可思議なことであるが）、ということです。まず第一に大切なのは、人間の行為を量りとするのではなく、「自由な選**び**による神の計**画**が進められる」ことでした。

そのようにして、エサウとヤコブに関しては、主の導きのうちに、「兄は弟に仕えるであろう」という人生模様が織り成されたのです。

今、パウロがマラキ書に^よ拠りつつ提起している問いは、「主イエス・キリストを信じる者たちよ、あなた自身の人生において、自由な選**び**による神の計画を受け入れますか」ということです。「わたしはあなたたちを愛してきた」ということが、今もそしてこれからも、人それぞれに対する神の自由な選**び**の中で、完成に向かって進められていることを、あなたは信じますか。

ハイデルベルク信仰問答 問26と答——

「我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず」（わたしは、神、父、全能者、天地の造り主を信じます）というときには、あなたは、何を信じているのですか。

天と地と、その中にあるすべてのものを、無より造り、これを、その永遠の御旨^{みむね}と摂理によって、保ち、支配してくださる、われらの主イエス・キリストの永遠の父が、その御子キリストのゆえに、わたしの神 また わたしの父に^ていますこと、その神に、わたしは、依り頼み、神が、からだと魂に必要なすべてのものを、備えてくださり、この悩みの多い世において、わたしにお与え^くくださる、どのような不幸さ^えも、わたしの益としてくださることを、疑^わないこと^であります。

「疑^わないこと^であります」ということは、裏を返せば、父なる神が私たちに与えられる必要なものや幸不幸などの点で、私たちは疑念を抱きやすいということです。ハイデルベルク信仰問答は、父なる神との関係において、まさに神が私に愛を注ぎ続けておられるかという点で、疑いが忍び込んできやすい人間の本性を見抜いています。

本日は、神がとこしえに私たちを愛するお方であること、そして、その神の愛に^こえて、私たちが神と隣人とを愛することの難しさを学びました。

コリントの信徒への手紙 二 13:13——

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがた一同と共にあるように。

なぜ、パウロは、「神の愛」の前に、「主イエス・キリストの恵み」を告知したのでしょうか？

正直に言えば、私たちには、「神の愛」はなかなか分からないところがあります。しかし、或る一人の牧師が言うように、主イエス・キリストを、その主の十字架と復活を、目の前に指し示されたとき、私たちは神の愛が受け止められるようになるのです。主にあって分かる、そこに聖霊が働いて分かるのです。

この祝祷は、私たちの礼拝の最後に唱えられます。

神の愛ほどに大切なものはありません。だからこそ、主イエス・キリストの恵みを基として、その愛の広さ、長さ、高さ、深さ（エフェソ 3:18）、その満ちあふれる豊かさにあずかれますよう祈りましょう。

茅ヶ崎香川教会月報

No. 443

2017年4月30日発行

編集発行：日本キリスト教団

茅ヶ崎香川教会

発行責任者：小河信一

編集責任者：波木井奈津子